

新春のつどい

金子みすゞ物語

おがわ町九条の会



おがわ町九条の会恒例「新春のつどい」が1月21日(土)小川町図書館視聴覚室で開かれました。今回は、女優谷英美さんをお迎えして、朗読と講演「金子みすゞ物語」。

みすゞの詩はどれをとっても、生きとし生けるものへの愛、弱者への温かいまなざし、命への賛歌にあふれています。2012年を迎えて、残念ながら「希望に満ちた幕開け」とは言い難いものですが、大きく変わろうとしている世界や

日本にとって、あらためてこの「命への賛歌」がどんなに大切なものかを実感させてくれます。この新しい出発、人間の「原点」を、視聴覚室満杯のお客様とともに確かめあうことが出来た、貴重な一日でした。アンケートと写真でご報告いたします。(写真提供は中谷功さん(みどりが丘在住)です)

とても素晴らしくて感動しました。涙が止まりませんでした。またぜひ機会があったら聞きたいです。みすゞの生涯ををわかりやすく心に届けてくれました。谷さん、美しい声忘れません。次回は「父と暮らせば」を希望しております。与謝野晶子、伊藤野枝、らいてう等に重なって、お聞きしていました。どうしてもう一步前に踏み出せなかったのか?読書家であるとお聞きしたけれど、それらの

人たちの言葉はどう届いたのか?そして、「私だったらどうしたか」考えながら拝聴しました。ありがとうございました。感情がこもっていてとても素晴らしかった。独り芝居ではないのに、芝居を見ているようでした。川越の寺での「みすゞ塾」に行ってみたい。心が震えました。谷さんの語り、やさしさ、明るさ、心の深さを感じることができました。

わかり易かった。金子のことを知り、幸いでした。九条の会もやるもんだ。

3.11 集会を小川町でやりませんか

「3月11日に小川町に集まりませんか」...西田一雄氏のこの呼びかけに応じて、今、小川町では新しい運動が始まろうとしています。先日26日中央公民館3F会議室に町内外からさまざまな立場の方々(30名余)が参集し、熱心に話し合いを持ちました。その模様取材しましたので報告します。(なお、この「3.11集会」は、おがわ町九条の会が行うものではありません。この日1日のための呼びかけ人を募り、呼びかけ人会議の決定に基づいて実行委員会を作って実施するものです。)

集会の日時：2012年3月11日(日) 時間・会場は未定

集会の名称：「さよなら原発3.11 小川町のつどい」

集会の趣旨：原発に頼らない社会を目指して



新規原発計画の中止・既存原発の廃止を
エネルギー政策の転換を
未来の子どもたちのために、みんなで決めていこう

会議では以上の点と、この日の参会者を「運営委員」とすることを確認し合いました。また数名の事務局員を選び、次回日程を確認して散会しました。

次回運営委員会(呼びかけ人の会議)2/9(木)午後6時~中央公民館
「会では運営委員(呼びかけ人)や事務局員を引き続き募集しています。気軽にお集まりください。また、様々な意見をお寄せ下さい」(西田一雄さん談)

「第六回おがわ町民コンサート」に出演して

勝呂 島田重雄

第六回おがわ町民コンサートが関係スタッフのご尽力と多数の参加者のご協力で、素晴らしいコンサートが出来たことを初参加者として深く感謝申し上げます。

11年は東日本大震災と福島原発事故で未曾有の被災をされ、改めて普通の日常生活と平和の尊さを感じさせる年となりました。人々の平和を願う想いと、音楽の力を信じ、本コンサートが継続されますよう祈念申し上げます。



新藤兼人監督の映画

一枚のハガキ



を見ましたか

～ 理不尽な戦争でもたらされた運命の残酷さ～

韮負 富田和朗

1月28日リリックおがわで、新藤兼人氏九十九歳、最後といわれる「一枚のハガキ」を上映した。私自身五指に入る映画と言ってきたが、今年のキネマ旬報ベスト1の評価を得た。

主人公森川友子(大竹しのぶ)が夫定造を戦地で亡くし、第三平と逆縁(この言葉、40代の女性に「知らない」と言われた)で結ばれたが、また戦死する。義父(病死)義母(自死)と別れ、一人生きていく女性の激しさ・強さを大竹しのぶが体当たりの熱演を見せる。新藤さんは亡き妻乙羽信子さんを想像していたのだろうか? 相手役松山啓太(豊川悦司)は100人中わずか6名くじ運で生き残った後ろめたさを感じながら生きていく。新藤さんの体験をもとに重ねて創られているのだろう。お金も家もすべて失い、新たに畑を開墾し、二人で生きる姿は、名画「裸の島」を連想させる。



戦争で失うものは大きい。悲劇を繰り返させないためにも、今後、多くの方々に鑑賞していただきたい映画である。

ご案内

徐さんはNHKテレビ「心の時代・フクシマを歩いて」に出演。福島を訪ね、被災者と会い、根源的な問題を提起。また、徐さんは日本の植民地政策の結果、在日を余儀なくされ、朝鮮半島の分断等の過酷な歴史体験を重ねられた方です。番組は再々放送までされ、徐さんの言葉は多くの人たちに感動を与えています。

今回、番組DVDを鑑賞し、徐さんのお話を伺う催しのご案内を頂きました。お誘い合わせてお出かけください。

原発事故から一年

フクシマを歩いて 見えてきた「日本」

3月4日(日) 11時～13時

国立女性教育会館 講堂

徐京植 講演

500円(税込) 500円(税込)

主催：徐京植講演会実行委員会(代表：渡辺礼一)
連絡先：TEL&FAX 0493-23-9638(神田絃子)



「脱原発会議」と「パレード」のもようを伝える東京新聞

「脱原発世界会議」に参加して

小川 菊地恵子

「脱原発世界会議 2012」開催!
「脱原発世界会議2012」が1月14～15日に横浜で開催され、海外約30カ国からの約100

名を含め、初日6000人、2日目5500人のべ11500人の参加者がありました。08年の「9条世界会議」の一翼を担ったピースポーターが事務局となり、若者中心に数10名のボランティアも活躍する、活気に満ちた集会でした。

大会場のシンポジウム・歌やトークイベント・百を超す持ち込み企画会場での様子は、全世界にネット中継され、約10万人が視聴。「福島原発事故で何が起きたのか」「自然エネルギーの世界」「世界のヒバクシャから学ぶ」「放射能から子どもを守る」等々、音楽やトーク、映画上映会、そして100以上の団体の持ち込み企画が、会議室やホールなど様々な場所で繰り広げられました。



対話交流そして発信「こんな大会議今までなかった?!」

屋台村のような多彩で楽しい雰囲気と参加者間の対話交流の重視。何と千人の大会場でも、初めや途中に隣りの人と二話す時間を設けたり、交流広場があったり。最初はとまどいもありましたが、専門家の話を聴いて終わりではない、これは私たち自身の問題、これからが始まり、という主催者の意図が感じられ、参加者同志の繋がりも進みました。過去から、そして世界から学び、

核のない地球へ!

プログラム巻頭には「福島で今日も続く過酷な現実」が、「この会議の出発点」、原発や原発、核実験など世界中で核の被害を受けてきた人々に学び、原子力からの脱却を世界に発信したい、とあります。閉会時には「横浜宣言」が発表され、来る3月11日に全世界での行動を呼びかけられています。

